

# 企業が進める生態系保全活動と見える化 — 日立ITエコ実験村 —

2011/10/25

株式会社 日立製作所  
情報・通信システム社  
環境推進本部

谷 光清



## *Contents*

1. 生態系の保全と企業活動のかかわり
2. 日立グループの取り組み
3. 「GeoAction100」の取り組み
4. ITエコ実験村
5. まとめ



# 1

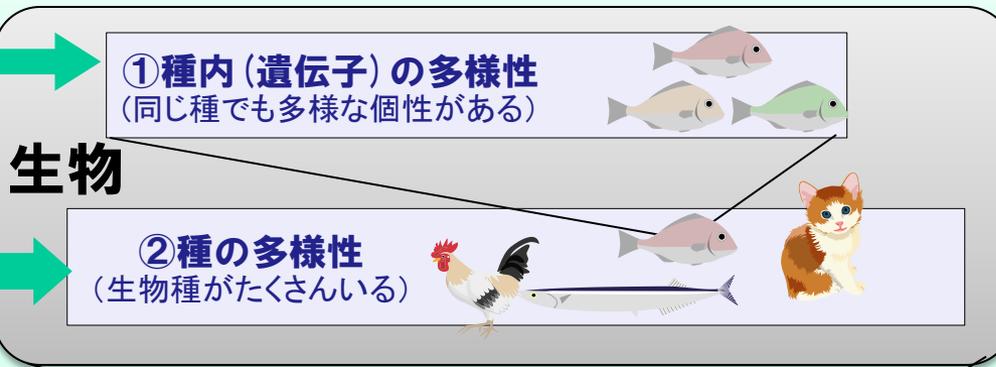
## 生態系の保全と企業活動のかかわり



# 1.1 生態系と生物多様性の概念

生態系や生物種などが多様なことを生物多様性という。  
人類はこの多様性から「恵み」(生態系サービス)を受けている。

**生態系** 生きものや、周辺の環境が相互に関係しながら生存する複合体。



**生物多様性**  
(3つの多様性を含む)



## 生態系サービス

生態系から得られる「恵み」



**供給サービス**  
清浄な水や酸素、食糧、木材資源などの資源を供給



**調整サービス**  
気候調節、洪水制御など環境を制御する

**文化的サービス**  
精神的な充足、レクリエーションの機会などを与える

**基盤サービス**  
光合成による酸素生成、土壌形成など上記のサービスの供給を下支えする

# 1.2 生物多様性の危機

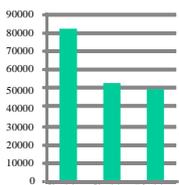
生物多様性は3つの危機により劣化しつつある。地球温暖化による危機も指摘されている。生物多様性には、過去50年間で人間活動により大規模で不可逆的な変化が発生している(国連のミレニアム生態系評価 たとえばEcosystemsの損失:3兆ドル/年 CDPの5%)

## 第1の危機

人間活動による生態系の破壊、種の減少・絶滅



全国の干潟面積の推移



戦後、干潟の4割が消滅

## 第2の危機

里地里山など人間の働きかけの減少による影響



耕作放棄地



手入れ不足の雑木林

## 第3の危機

外来生物などによる生態系のかく乱



台湾ザル→

←オオクチバス

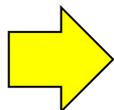


©白井啓



## 地球温暖化による危機

全球平均気温が1.5~2.5℃上昇すると...



世界の動植物種が20~30%で絶滅リスクが上昇する可能性



サンゴの白化

出典:IPCC第4次評価報告書(2007)

## 1992 生物多様性条約調印

リオ・デ・ジャネイロで開催された国連環境開発会議(UNCED、地球サミット)で条約を調印。(気候変動枠組条約と同時)

条約の目的: ①生物多様性の保全 ②生物多様性の構成要素の持続可能な利用 ③遺伝資源の利用から生ずる利益の公正で衡平な配分 (ABS: Access and Benefit Sharing)

条約の目的を実現させるために、条約の実施等に関する意思決定の場として、生物多様性条約締約国会議(COP)を隔年で実施

## 2002 2010年目標 採択

2002年 第6回締約国会議(COP6)で、「締約国は2010年までに、地球、地域、国レベルで、生物多様性の現在の損失速度を顕著に減少させる」という2010年目標が採択される。この目標は達成することができなかった。

## 2010 第10回締約国会議(COP10・名古屋)

遺伝資源の利用と配分に関する国際ルールである「名古屋議定書」と、2010年以降の世界目標である「愛知ターゲット」が採択された。

# 1.4 生物多様性条約第10回締結国会議の結果

2010年(平成22年) 10月11日～29日 名古屋国際会議場

議長国 : 日本

## 主な成果

- 新戦略計画・**愛知目標**(ポスト2010年目標(2011～2020年))
  - 遺伝資源へのアクセスと利益配分(ABS)に関する**名古屋議定書**
  - 資金動員戦略
  - 持続可能な利用
  - バイオ燃料と生物多様性
  - 海洋と沿岸の生物多様性
  - 科学および技術協力とクリアリングハウスメカニズム(生物多様性情報)
  - 世界植物保全戦略
  - 広報、教育、普及啓発(CEPA)および国際生物多様性年
  - 内陸水の生物多様性
  - 山地の生物多様性
  - 保護地域
  - 乾燥地・半湿潤地の生物多様性
  - 侵略的外来種
  - 世界分類学イニシアティブ
  - 多様な主体の協力
- ほか、運営費予算、COP11の開催場所をインドにするなど。

出典: 環境省報道発表資料(11/2) <http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=13104>

## 新戦略計画・愛知目標（抜粋）

**ビジョン**: 2050年までに自然と共生する社会を作る。

**ミッション**: 2020年までに生物多様性の損失を止めるために効果的かつ緊急な行動を実施する

**戦略目標A**: 各政府と各社会において生物多様性を主流化することにより、生物多様性の損失の根本原因に対処する。

**目標4**: 遅くとも2020年までに、政府、ビジネスなどの関係者が持続可能な生産及び消費のための計画を達成するための行動を行い、またそのための計画を実施しており、また自然資源の利用の影響を生態学的限界の十分安全な範囲内に抑える。

**戦略目標B**: 生物多様性への直接的な圧力を減少させ、持続可能な利用を促進する。  
(自然生息地の損失速度の半減、生物資源の管理収穫、汚染の抑制、侵略的生物種)

**戦略目標C**: 生態系、種および遺伝子の多様性を守ることで、生物多様性の状況を改善する。(保全地域を内陸水域の17%、海域の10%にする)

**戦略目標D**: 生物多様性および生態系サービスから得られる全ての人のための恩恵を強化する。(劣化した生態系の回復、生態系サービスの回復)

**戦略目標E**: 参加型計画立案、知識管理と能力開発を通じて実施を強化する。  
(計画策定、資金資源動員)

# 1.6 国内動向

日本発の取組みとして、人間が関わることにより維持される里山に焦点を当てた SATOYAMAイニシアティブを発信している。

**SATOYAMAイニシアティブ**  
 「二次的自然環境における自然資源の持続可能な利用・管理の推進」  
 環境省及び国連大学が中心となり、国際パートナーシップを立ち上げ、国際協力機構等他のパートナーと連携して推進。



日本

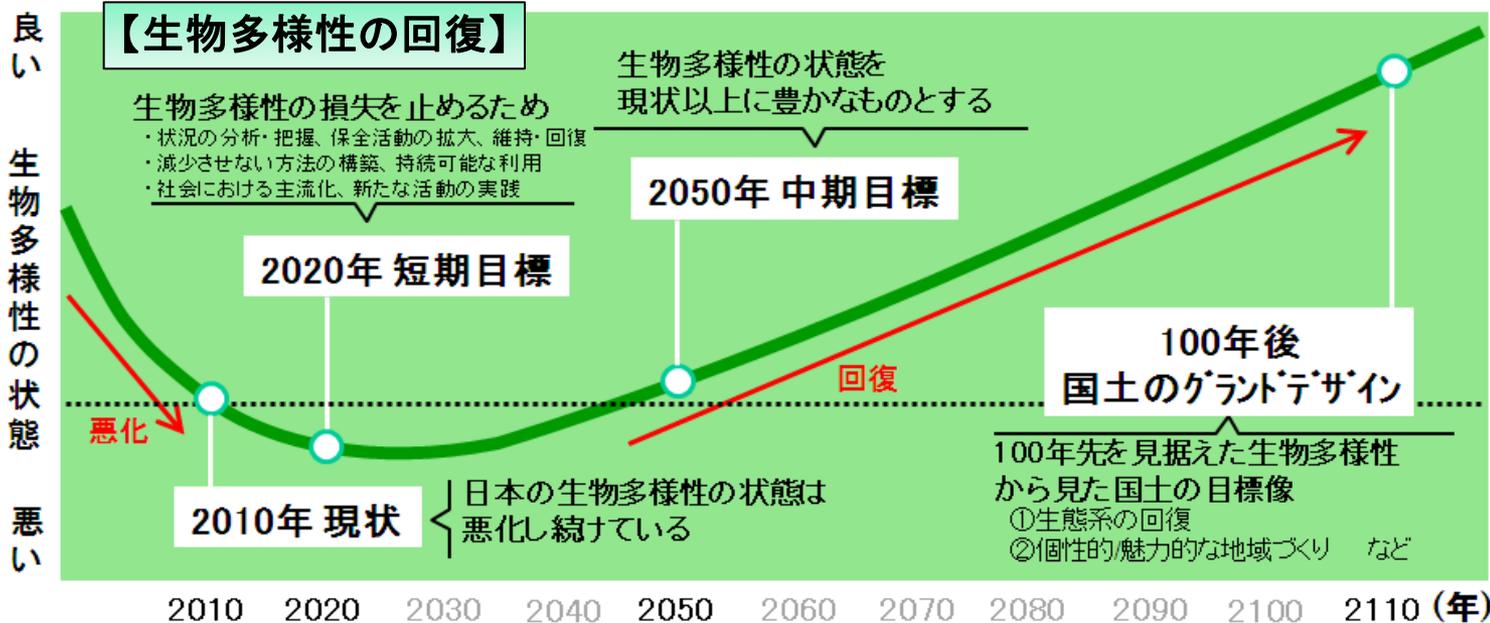


インドネシア



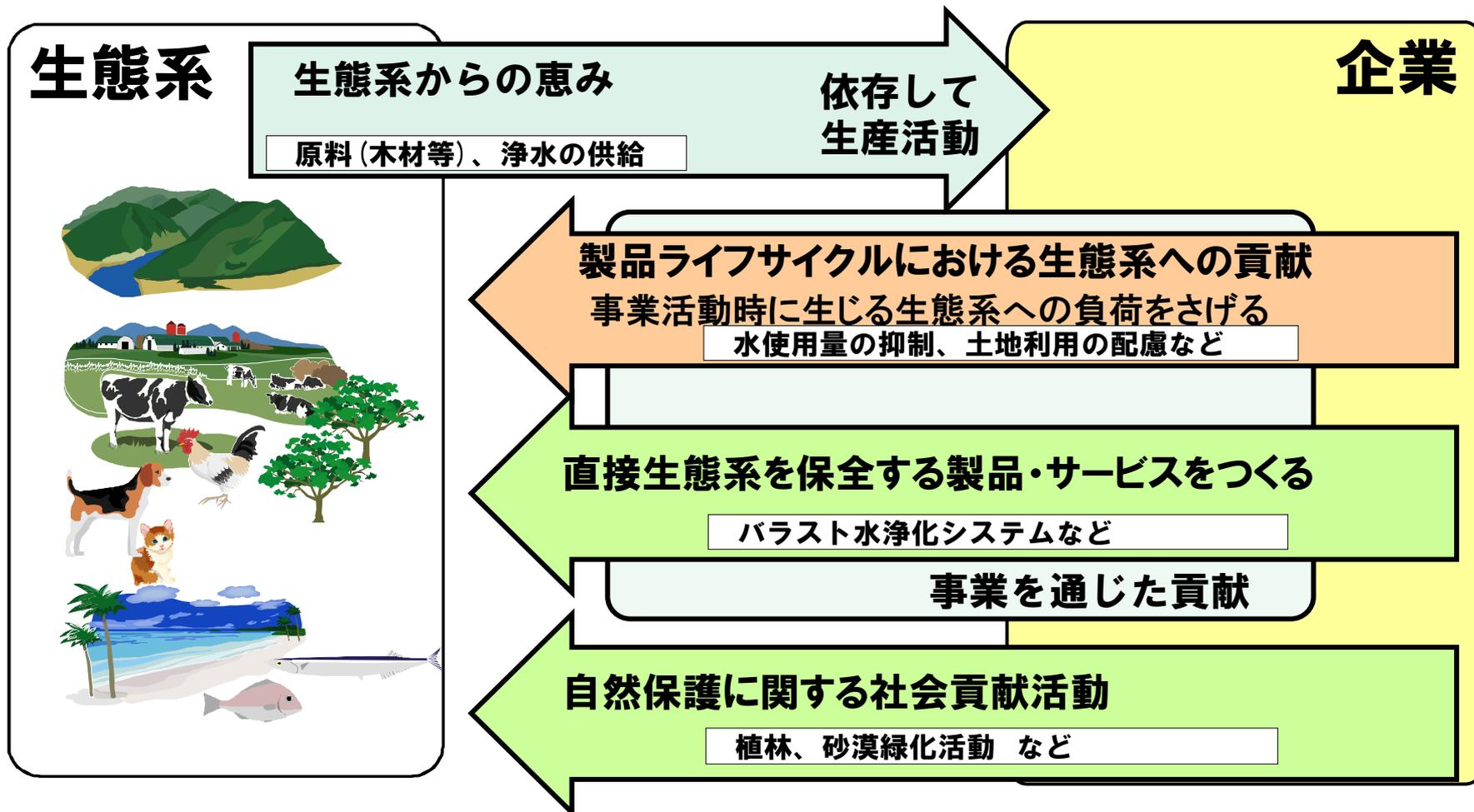
ドイツ

2010年3月に生物多様性基本法に基づく法定戦略「生物多様性国家戦略2010」を公表。現状悪化している生物多様性の状態を回復させていく計画(緩和策) → **Tipping Point**



# 1.7 生態系の保全と企業活動のかかわり

- 生態系の保全に向けた**緩和策**(負荷の低減、保全する製品開発、保全活動など)の推進
- 今後は、社会と協働で**適応策**(悪影響への対策)に踏み込む活動の推進



## JBIB (企業と生物多様性イニシアティブ)



参加企業: 日立、富士通、パナソニック、三井住友海上火災保険、鹿島建設、清水建設、リコー、博報堂、レスポンスアビリティ 他(本会員36社)

・企業の自主的な集まりにより生物多様性について検討。企業と生物多様性の関係性を図示する「関係性マップ」や、企業の土地利用を評価できる「土地利用通信簿」などを発表。

## COCN (産業競争力懇談会)

企業活動と生物多様性研究会



参加企業: 日立(事務局)、富士通、シャープ、NEC、リコー、鹿島建設、清水建設、森ビル、住友信託銀行、レスポンスアビリティ 他

・2010年より発足した2年計画の研究会。中間とりまとめでは、ESR、CEV、JHEP、などの手法の調査や、企業の事例をとりあげ、生物多様性の保全のための企業の取り組み項目について、参加企業の試案を掲載している。

中間とりまとめ報告: <http://www.cocn.jp/common/pdf/thema32.pdf>

# 1.9 企業のための生態系評価(CEV)ガイド



## WBCSD発行のCEVとは

WBCSD：持続可能な発展のための世界経済人会議(The World Business Council for Sustainable Development)の略称

生態系の劣化と生態系サービスから提供される便益の両方を明示的に評価することにより、より良いビジネス上の意思決定を行うプロセスを取りまとめたガイド (Guide to Corporate Ecosystem Valuation)

パート1 スクリーニング、パート2 CEVの手法(5つの段階)の2つのパートから構成されています。

- (1)スコوپिंग
- (2)計画を立案
- (3)9つのステップによる評価
- (4)評価結果の適用
- (5)企業活動への組込



- 企業価値をより良く評価するために環境パフォーマンスを定量化
- 収益を維持・向上させること
- 経費を削減すること
- そして資産を再評価

2011年度中に確立する

# 2

## 日立グループの取り組み



# 2.1 持続可能な社会



**地球温暖化の防止**  
CO<sub>2</sub>排出量の少ない生産・製品をつくる

**生態系の保全**  
生態系への低負荷生産  
森林保護活動

**資源の循環的な利用**  
製品を回収し、資源として利用する

**生態系の保全**  
大気・水・土壌をクリーンにする

## 2.2 日立グループの環境ビジョン

日立グループは「地球温暖化の防止」「資源の循環的な利用」「生態系の保全」を3つの柱として、持続可能な社会の実現をめざす

CO<sub>2</sub>排出量の少ないエネルギーインフラをつくる  
エネルギー消費の少ない製品をつくる



製品を回収し、資源として利用する

大気・水・土壌をクリーンにする

持続可能な社会をめざして

## 2.3 日立の環境保全行動指針(抜粋)

### 環境保全行動指針(抜粋)

1. 持続可能な社会の実現を経営の最重要課題の一つとして取り組む
2. 地球温暖化の防止、資源の循環的な利用、**生態系の保全に配慮**した技術・製品により社会に貢献する
3. 環境保全を担当する役員は、環境保全活動を適切に推進する責任をもつ
4. 環境負荷の低減をめざしたグローバルなモノづくりを推進する
5. 省エネルギー、省資源、リサイクル、**生態系への配慮**等、環境保全性に優れた技術、資材の導入を図る
6. 環境規制の遵守、自主基準の策定により環境保全に努める
7. グローバルなモノづくりに際しては、地域社会へ与える環境影響に配慮する
8. 地球環境保全活動についての社員教育を行う
9. 環境問題の可能性を評価し発生防止に努める
10. 環境保全活動について**ステークホルダーとのコミュニケーション**に努める

1993年3月制定(2010年7月改正)

環境保全行動指針を改正して生態系の保全の文字を追加。  
生態系の保全の「宣言」などをつくることも検討したが、もともとあった環境保全行動指針と記載内容が重複することから、整理統合した。

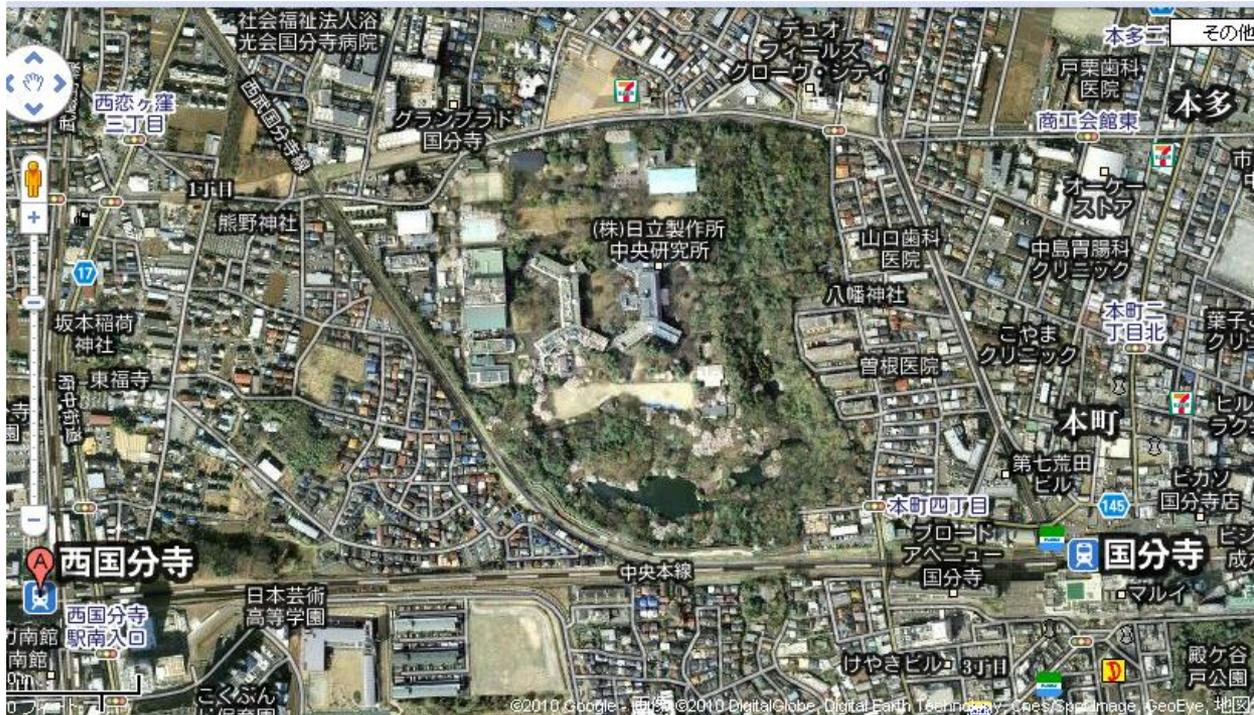
## 2.4 中央研究所のみどりの保全

🌐 創業社長 小平浪平

「よい立木は切らずによけて建てよ」

中央研究所 創設時の言葉 (1942年 昭和17年)

※日立製作所 創業 (1910年)



戦後にかけてこの周囲は住宅化が進んだため、周囲は住宅地。過去の面影を残す「武蔵野のみどり」が、この一角だけ残っている。

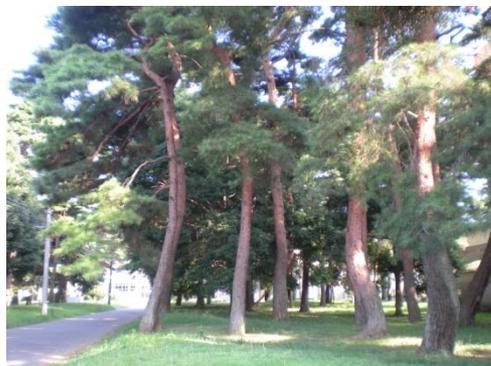
Googleマップによる中央研究所周辺エリア

## 2.5 生物多様性につながる企業のみどり100選

「生物多様性につながる企業のみどり100選(主催:財団法人都市緑化基金、後援:国土交通省ほか)」に6事業所が認定。(2010年10月発表)



(株)日立製作所  
中央研究所



(株)日立製作所  
水戸事業所



(株)日立産機システム  
中条事業所



日立電線(株)  
土浦工場



日立アプライアンス(株)  
栃木事業所



(株)日立総合経営研修所

- 研究者と協力し、絶滅危惧種の「ミヤマシジミ」の保全活動を実施。社員がボランティアの形で参画。NPO法人「アースウォッチ・ジャパン」と協力。



ミヤマシジミ

- ・絶滅危惧Ⅱ類指定。
- ・日本では関東と中部地方の一部に生息。
- ・成虫のオスの羽は鮮やかな青色、メスの羽は黒褐色。幼虫は体長1cm足らず。
- ・野焼きの後に茂る低木のコマツナギを唯一の食草とする。

## 2.7 幼虫の調査風景



目を凝らして幼虫を探す。

- 生息域で幼虫を数える。
- 限られた範囲の「コマツナギ（食草）」にしか生息しない。



アリと共生する幼虫

- 天敵のヤドリバチに狙われないため、幼虫は背中から蜜を出してアリと共生。
- 幼虫はアリの巣の中でチョウになる。

## 2.8 日立の樹



日立グループは、環境ビジョンに記載されている「持続可能な社会」を実現するため、CMに代表されるような多様な「生態系の保全」へ貢献できる取組みを進めています。

### 日立の樹



名称 モンキーポッド(MONKEY POD)  
樹齢 約130年  
場所 「モアナルア・ガーデンパーク」  
(アメリカ合衆国ハワイ州オアフ島)  
現在放映中の第9代CMに至るまで、  
4種の「日立の樹」が登場

Copyright © 2007, Hitachi, Ltd.

 日立の樹  
ONLINE  
<http://www.hitachinoki.net/>

日立の樹オンライン

<http://www.hitachinoki.net/index.html>

© Hitachi, Ltd. 2011. All rights reserved.

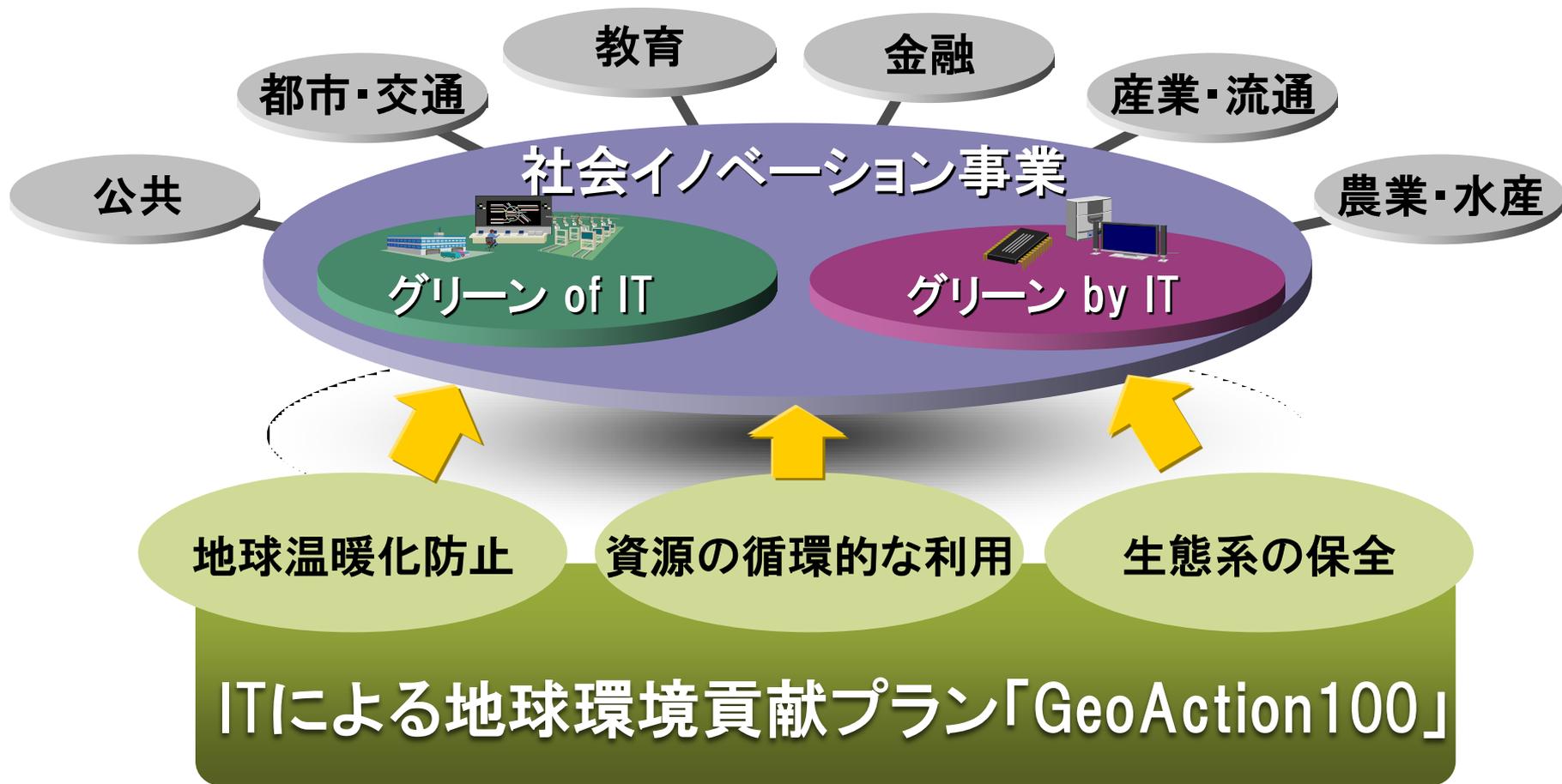
# 3

## 「GeoAction100」の取り組み



# 3.1 事業と「GeoAction100」の位置づけ

## 社会イノベーション事業を支える、ITによる地球環境貢献プラン



## 持続可能な社会の実現とお客さまの環境経営への貢献拡大

### 日立の環境ビジョン2025

日立グループの製品を通じて  
2025年度までに年間1億トンのCO<sub>2</sub>排出抑制に貢献



情報・通信システム社として年間400万トン排出抑制貢献(2025年度)

Green of IT  
IT省電力化計画  
Harmonious Greenプラン

CO<sub>2</sub>排出量33万トン抑制  
(2008-2012年度累計)

データセンタ省電力化  
プロジェクト  
CoolCenter50

消費電力量を最大50%削減  
(2012年度、2007年度比)

Green by IT  
ITによるグリーン化

環境適合製品売上高比率  
50%(2010年度)

### ITによる地球環境貢献プラン「GeoAction100」

地球温暖化の防止

・ハード、ソリューション製品のCO<sub>2</sub>排出量情報をお客さまに提供

資源の循環的な利用

・情報・通信分野での製品回収スキームを強化

生態系の保全

・ITエコ実験村構想など

# 4.

## ITエコ実験村



# 4.1 エコ村開設に至った経緯

2011年～2020年 国連生物多様性の10年  
(どう向き合い、どう行うか?)

環境貢献  
(汗を流す)

バイオレメディエーション

バイオミミクリー (修復)  
(模倣)

- ①地域と協働
- ②ITの活用  
(見える化)
- ③地域貢献

企業

(グリーン with IT)

地域

(地権者、自治体、学校)

生態系サービス (調達、調整、文化、基盤)

### 「生態系の保全」における取組みの一環として“ITエコ実験村”を秦野市に開設

#### エコ村開設の目的

- ① 地域と協働して活動できるクリエイティブな自然実験場
- ② 既存の研究成果・技術・ITを応用して生態系保全を推進
- ③ 地域の環境貢献、生態系保全の見える化(達成感共有)

#### エコ村活動概要

- ① 生き物を呼び戻すための環境づくり(※1)
  - ～生態系を壊さないように最低限の手入れ～
  - ◆ 休耕田の再生、ビオトープづくり、竹林や外来種の間伐等によるフィールド整備
- ② ITを活用した生態系保全活動の実験 ～ 効率的な環境情報取得方法の検証～
  - ◆ 省電力&無線技術を活用した温度・湿度センサーによる環境基本データ取得
  - ◆ スマートフォンを活用した生物観測結果の入力と携帯メールによる情報送信
  - ◆ 近赤外線技術を活用した24時間、動物生息状況を観測
  - ⇒ これらの情報をエコ村内の管理棟内のサーバにて情報管理
- ③ エコ村の活動をホームページにて情報発信

※1: 秦野市みどり条例により、秦野の希少な生き物が生息する地を「生き物の里」として認定する制度があり、この地を2011年4月1日付けで指定第5号として認定されました

# 4.3 生き物を呼び戻すための環境づくり

生態系を壊さないように留意しながら、このように整備しました



◆希少動物が生息する環境があるため、枯竹の除去のみ実施しました



◆植物が生息する環境があるため、外来種の除去のみ実施しました

◆広葉樹林再生エリア内に山道を整備しました



◆竹林伐採により、日当たりを良くし、草地や雑木林に戻します



◆休耕田(荒地)を整備し、水路、水田、ビオトープを作り、さまざまな生き物を呼び戻します



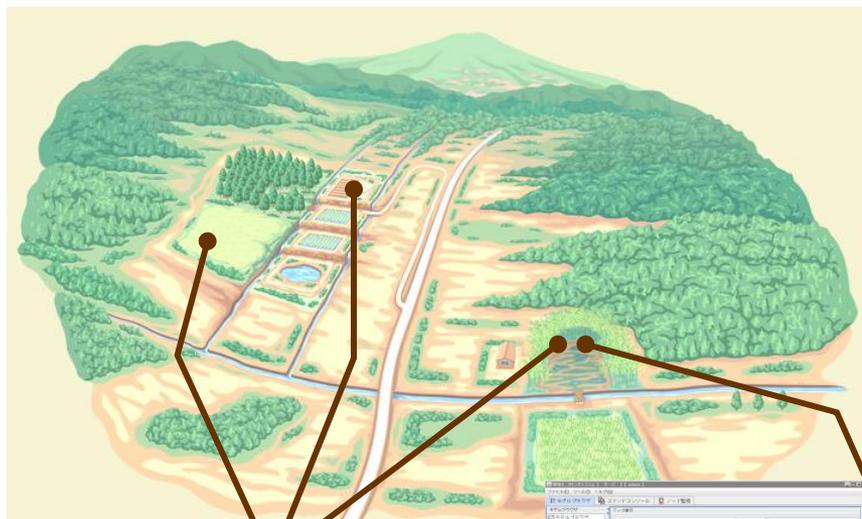
◆埋没していた水路を復活させました



# 4. 4 ITを活用した生態系保全活動の実験



## 日立のIT技術を活用して効率的な環境基礎情報取得を行います



### AirSense II (日立製作所)

#### 【目的】

- ◆ 環境基礎情報の「温度」「湿度」情報の取得

#### 【特長】

- ◆ リアルタイムでの計測が可能
- ◆ 計測結果を無線での情報送信が可能
- ◆ 省電力技術により4年間電池交換不要



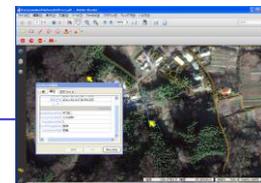
### GeoPDF (日立ソリューションズ)

#### 【目的】

- ◆ 位置情報付での生物観測結果の取得

#### 【特長】

- ◆ スマートフォンを活用して現場での観測結果入力
- ◆ 観測場所の位置情報取得が可能
- ◆ 観測結果をAcrobat Readerに表示可能



### 可搬型映像記録装置 (日立国際電気)

#### 【目的】

- ◆ 動物の生息情報(動画)の取得

#### 【特長】

- ◆ 近赤外線技術により夜間での撮影が可能
- ◆ 可搬型のため、多様な環境下での設置が可能
- ◆ 市販ハードディスクへのデータ保存が可能



# 4.5 ITを活用した環境保全の見える化(試み)

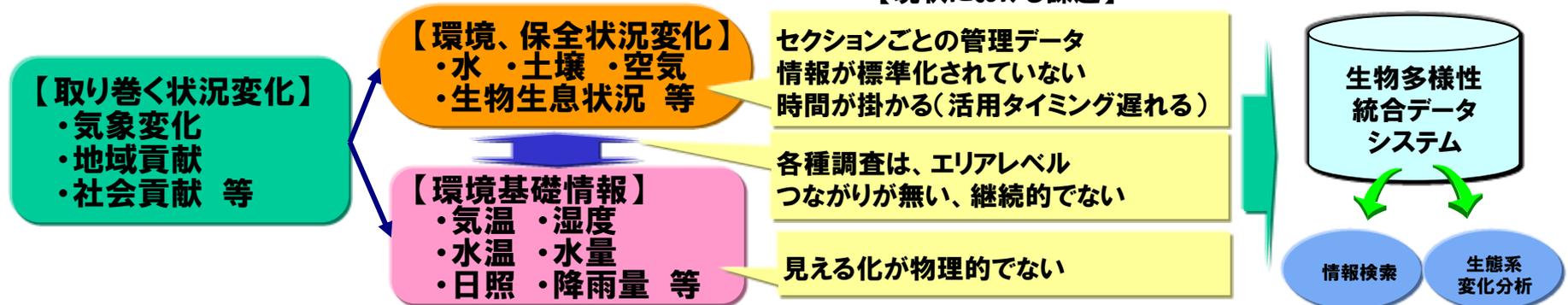
国、自治体、教育機関、また、企業においても近年、積極的な取り組みを行っているが、生態系に関する**インメモリーデータの整備**や生態系の変化(効果)を定量的に把握する**エキスパートシステム**が必要

日立では、「BAS」と「BAA」により、生態系変化と保全活動による効果を簡易に評価する仕組みづくりを「試み」として検討しています

- ✓ 生態系の環境基礎データ(気温、湿度、水温等の定量データ)と生き物の観測データ変化をリンクさせた生物多様性統合データシステムを整備することにより、情報検索や、生態系変化を分析できる仕組み

⇒ **BAS: Biodiversity Analyses System**

【現状における課題】



- ✓ さまざまな生態系保全活動の成果を過去の里地・里山を基準に復元率で簡易的に評価できる仕組み ⇒ **BAA: Biodiversity Area Assessment**

# 4. 6 生物多様性統合データシステム【BAS】



【BAS : Biodiversity Analyses System】

環境基礎データ計測  
(IT観測)

フィールド観察  
(観察者)

「環境情報データベース(標準化)」

「フィールド観測フォーマット(標準化)」

「Air Sense  
(温度・地温・湿度・水温)」

「水位計」

「雨量計」

生物多様性  
統合データシステム  
【BAS】

「GeoPDF」

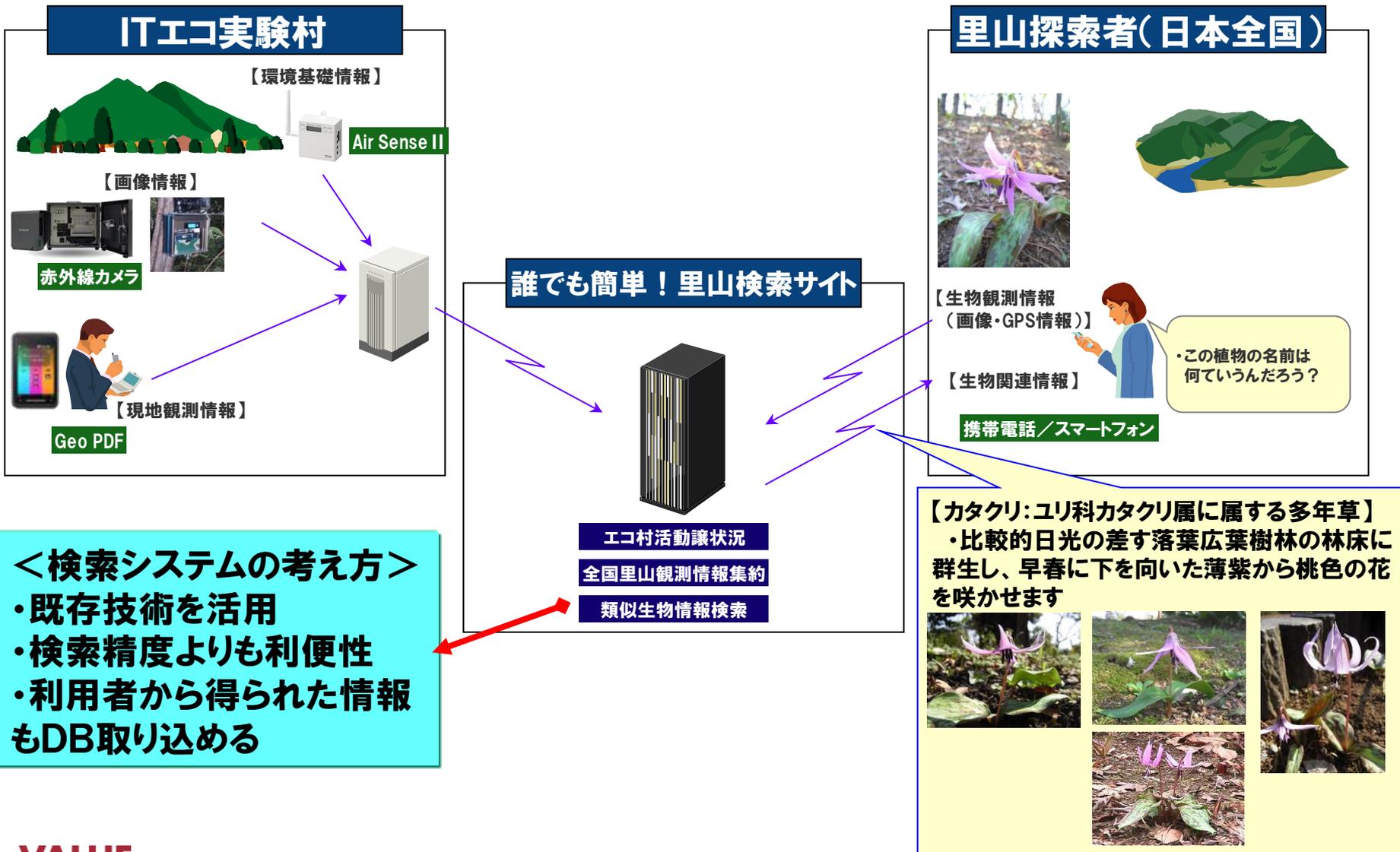
検索／分析  
(アプリケーション)

「高速類似画像検索技術」



# 4.7 生物多様性統合データシステム【BAS】

## 【生物情報検索システムイメージ】



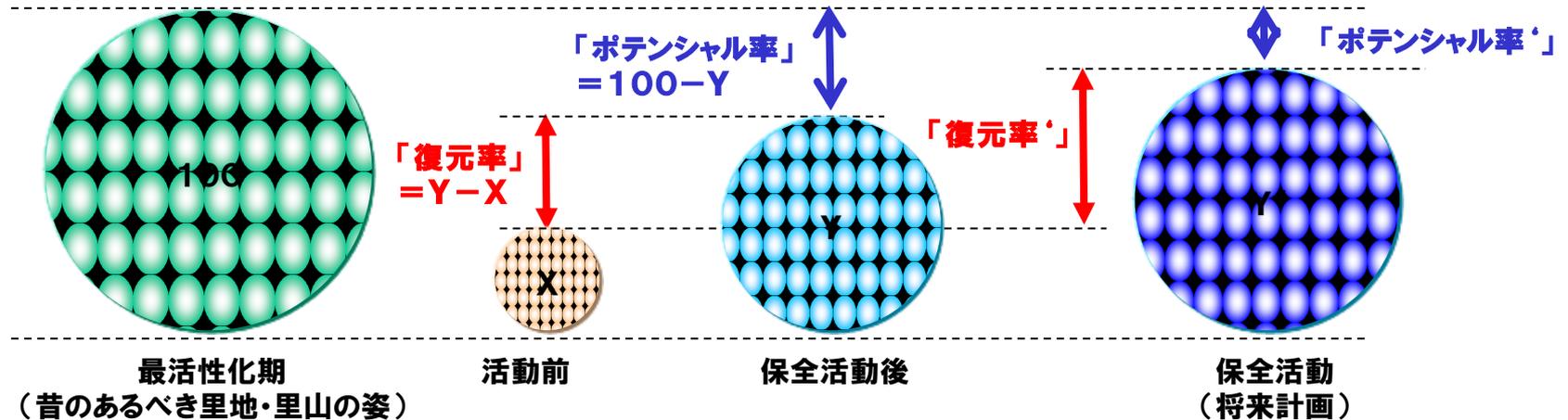
### <検索システムの考え方>

- ・既存技術を活用
- ・検索精度よりも利便性
- ・利用者から得られた情報もDB取り込める

## 【BAAにおける評価の考え方】

### 【評価の基本的な考え方】

- ◆ 目標を当該地域において最も活性していた時期と設定(=100とする)して
  - ・活動前の状態に対する「復元率(活動によってどれだけ効果が得られたか)」
  - ・目標に対する「ポテンシャル率(このフィールドであとどれだけ保全活動する余地があるか)」



### 【評価項目】

- ◆ 活動地目分類「山林」「耕作地」「水域」「生物管理エリア」毎の面積比と、「活動人口」の5項目を評価項目として設定
- ◆ 評価項目地目分類に関しては地目ごとに面積×係数(重み付け)にて評価  
(重み付けは、JHEPの評価方法を参照)

### 【評価方法】

- ◆ 「最活性化期」の状態を100として、「活動前」「保全活動後」および「将来計画」の評価を実施
- ◆ 総合評価としては、5つの評価項目間に重み付けは行わず、評価項目の平均値で評価する

## 4.9 生態系保全活動評価システム【BAA】

### 【BAA(Biodiversity Area Assessment)検討に至った経緯】

■「HEP」、「JHEP」→認知度の高い

広範囲な活動全般が対象

里地・里山の保全活動について貢献度わかりにくい  
関係者や地域の方との交流を通じて考案

### 【JHEP((財)日本生態系協会のハビタット認証制度)とBAAの比較】

比較項目	JHEP	BAA	BAAの特長
評価対象	「事業主体」「工事受注者」を対象 企業活動範囲内が多い	事業に関わらず、地域の生態系保 全活動全般を対象	より広範囲な生態系保全活動に適 用可能
評価所要 期間	1ヶ月から1年間	1週間程度	短期間での評価実施が可能
評価対象 期間	基準年より50年	保全活動着手より10年	直近での効果を目標とする
保全目標	評価時に地域性を考慮し設定	昔の里地・里山を目指すべき姿とし て設定	簡易に設定可能な仕組み
評価方法	総ハビタット価値(指標生物の選定 と植生状況から環境維持・再生の累 積量を評価 ⇒複雑(?))	保全した土地の面積や現状の生産 性などの数字を用いて復元率・ポテ ンシャル率を評価 ⇒簡易	誰でも簡易にできる仕組み 地域の価値を見直す(再生)

### 🌐 里山保全行動を心理学で捉える基本的な考え方

関連性  
の認識

定量的  
な把握

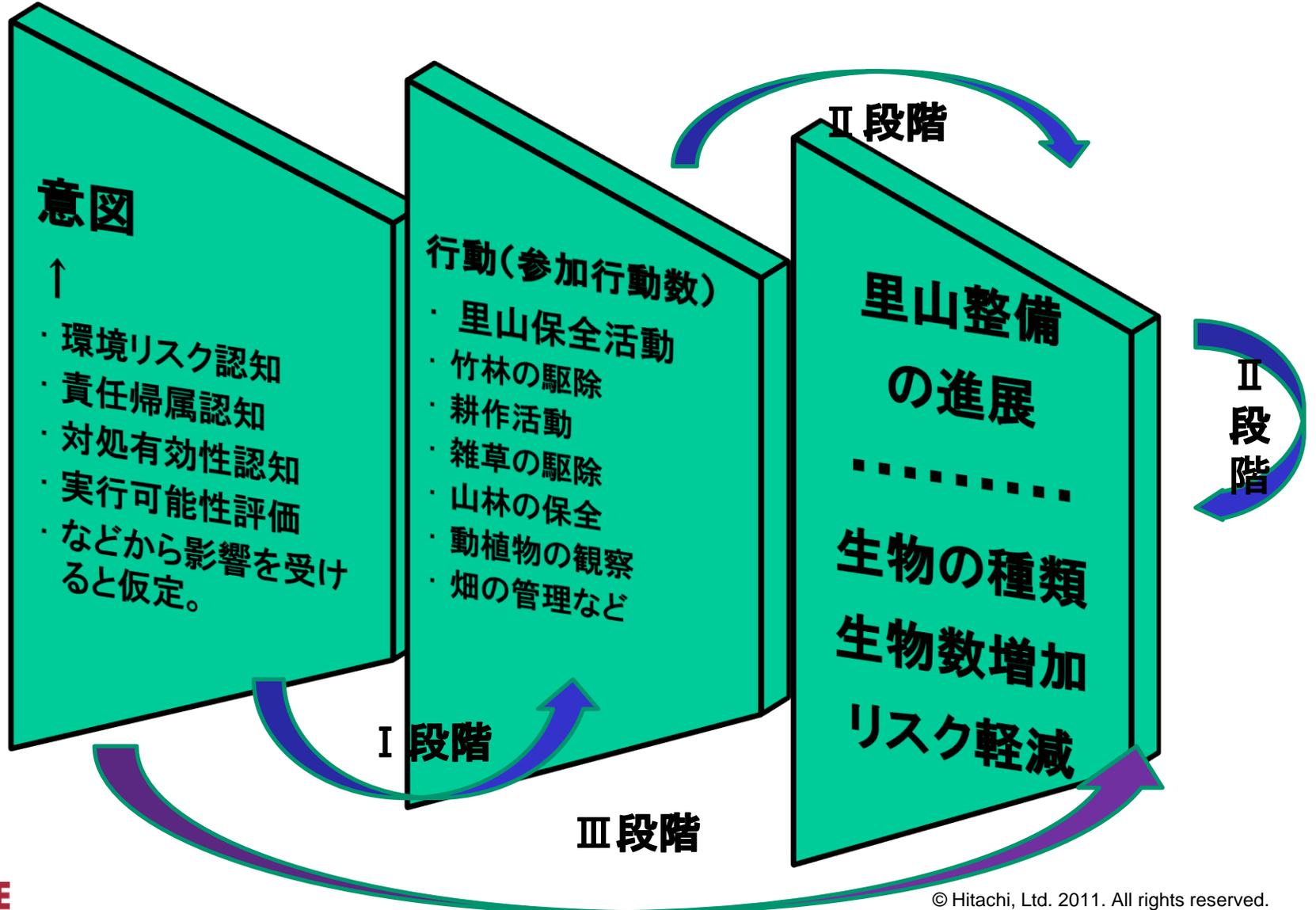
適応策

# 4.11 意識評価の定量的な把握(取得)方法

## 「里山保全行動」に関する心理学的なデータ取得

仮説の有無	仮説なし	仮説なし	仮説あり
調査方法 / 扱うデータ	自由な人の語り	自由な人の行動	限定的な言葉
①インタビュー(質問したことを記録する)	定性的データが主	定量的データが主(被験者数は比較的少ない)	(I)質問紙調査
②参与観察(一緒に参加して見た出来事を記録する)			
③行動観察(定義した行動を言葉にしたり生起回数を数える)	(II)行動場面調査	(III)インタビュー(IV)アンケート	定量的データ(被験者多い)
④行動場面観察(行動場面の数を数える)			
⑤質問紙法(仮説に基づいて作成した項目への反応を数える)			

🌐 心理学的に里山保全行動を検証するための要因とロジック



# 4.13 エコ村の運営体制

地域や大学と協調しながら活動を推進していきます

環境保全計画  
生き物調査  
(水生・陸生生物)

**東海大学**  
藤田教授  
藤吉准教授、北野准教授

**渋沢幼稚園、  
近隣の学校ほか**

**千村ネイチャー  
倶楽部**

里山保全指導  
(企業参加)

**東京農大・農山  
村支援センター**  
竹田事務局長

GeoPDF

生き物調査  
耕作体験

耕作体験、  
里山再生体験、  
自然体験



温暖化影響  
と適応策研究

**法政大**  
白井教授



秦野市みどり条例

Air Sense



管理棟設置  
モニタリングソリューション導入  
(Air Sense、GeoPDF、センサー  
カメラほか)  
統合DB、検索システム

意識と  
地域環境保全

**東京都市大**  
高橋先生

センサーカメラ

**生き物の里(千村)**(第5号)  
(日立ITエコ実験村)



生き物の里(千村)管理運営協議会

会長:竹久保 昭一

国内外の団体との  
ネットワーク

**千村自治会  
(地権者)**  
会長:竹久保 英一

**ちむれ里の会**  
会長:竹久保 昭一

**日立製作所、  
グループ会社ほか**  
情報・通信システム社  
(GeoAction100プロジェクト)

耕作指導

保全体験指導

生き物調査、耕作体験  
生態系保全検証・評価  
CSR活動

秦野市役所  
(オブザーバ)

# 4.14 ITエコ実験村の風景とつぶやき(1)



地域は、30年前まで「地力」があった。



地域と企業の協働が求められる

# 4. 15 ITエコ実験村の風景とつづやき(2)



# 4. 16 ITエコ実験村での活動



千村ネイチャー倶楽部活動



生き物の里活用  
(しぶさわ幼稚園田植え体験)



日立ITエコ実験村イベント活動  
(再生した休耕田での田植え体験)



東海大の環境学習指導体験

# 4.17 東海大調査で観測された生き物たち



哺乳類:アカネズミ



ニホンジカ



ニホンザル



哺乳類:ニホンリス



イタチ



アナグマ



鳥類:コジュケイ ほか



水生・陸生生物:ホトケドジョウ



ツチガエル



シマヘビ ほか



東海大による生き物調査の様子

# 4. 18 ITエコ実験村に係わる人々



しぶさわ幼稚園の  
観察会



地元の皆さんと(稲刈り)



農山村支援センター  
竹田先生



NPO「モコメン」ほか



千村ネイチャー倶楽部



日本環境倶楽部

# 4.19 エコ村からの情報発信



## エコ村の活動をホームページにて情報発信していきます

🔊 文字拡大 |  | 検索 Powered by Google | [English](#) | [Chinese](#) | [JAPAN](#)

環境への取り組み **HITACHI**  
Inspire the Next

[ビジョン](#) | [日立の環境事業](#) | [日立みんなのエコ活動](#) | [環境活動報告](#) | [広告・イベント](#) | [サイトマップ](#) | [お問い合わせ](#)

📍 [サイトトップ](#) > 「GeoAction100」自然再生プロジェクト ITエコ実験村

「GeoAction100」自然再生プロジェクト

# ITエコ実験村

地域や大学とともにITを活用した生態系の保全活動に取り組んでいます。

雑木林、水田、畑地、小川といった身近な自然。日本の原風景ともいえる里山は、特有の動植物の生育・生息地であり生物多様性の観点からも注目されています。日立は、神奈川県

秦野市と東海大学、地域のみなさんの協力により

「ITエコ実験村」を開村。ITで環境に貢献する「GeoAction100」の取り組みとして、里地里山の自然環境を保全する活動を進めています。



### エコ村だより

→ [バックナンバー](#)

掲載日時: 2011年3月8日

#### 開村に向けて

4月の開村に向けて、エコ村では、着々と整備作業を進めています。なるべく、...

→ [詳細はこちら](#)



最近完成した木道

ITエコ実験村のホームページはこちら ↓

<http://www.hitachi.co.jp/environment/iteco/index.html>

# 5

## まとめ



🌐 「生態系の保全」における取り組みの一環として“ITエコ実験村”を開村し、地域とともに、ITを活用して(見える化)、地域環境貢献、保全を推進

🌐 皆さんへのお願い

■ぜひ一緒に日本流の評価で、里地・里山の価値を見直したい

■エコ実験村HP: <http://www.hitachi.co.jp/environment/iteco/>

千村ネイチャー倶楽部Twitter: [http://mobile.twitter.com/Chimura\\_nature](http://mobile.twitter.com/Chimura_nature)



是非一度“ITエコ実験村”にお立ち寄りください。